

観・知識」を点数化した。「正答」には+1点、「誤答」には-1点、「分からない」、「無回答」は各0点と点数化し、合計点を「老人観」の点数にする。その結果、「老人観」の平均点は9.72、標準偏差は4.82、最大値は20、最小値は-6である。

(4) 介護意識

特別養護老人ホーム職員の介護意識をはかるために、Kahana E. F.らが開発したWork with the Aged Scale (以下、WWA スケール) を用いる。WWA スケールの日本語版は25項目であるが(東條、1987)、本調査はその25項目から、さらにプリテストによって、意味の類似していたり、理解しにくい項目を除いて、最終的に19項目を選ん

だ。回答は「大いに賛成」、「やや賛成」、「やや反対」、「多いに反対」の4点法リッカート・スケールによって求めた。

1 集計結果

職員の介護意識に関する単純集計の結果は表5の通りである。

2 項目の採用

データに偏りが生じると、弁別するための尺度を構成する項目として問題があると考えられる。そこで、以下の手順で弁別性のある項目を選択した。

「大いに賛成」と「やや賛成」、「大いに反対」と

表5 介護意識の単純集計

項目	大いに賛成	やや賛成	やや反対	大いに反対	無回答
1 お年寄りに接する仕事に、専門的知識や技術はほとんど必要ない	5 5.4%	5 5.4%	16 17.4%	66 71.7%	
2 いつも明るい気持ちでお年寄りの世話をすることは難しい	10 10.9%	47 51.1%	18 19.6%	17 18.5%	
3 施設において、お年寄りにはもっとよい生活ができるようにするべきである	50 55.6%	29 32.2%	10 11.1%	1 1.1%	2
4 お年寄りを世話する仕事はそれほど大切ではない	3 3.3%	3 3.3%	15 16.5%	70 76.9%	1
5 お年寄りの世話を一生懸命やってみてもあまり効果があがらない	4 4.4%	16 17.6%	39 42.9%	32 35.2%	1
6 お年寄りの世話をしていると、もっと頑張って仕事をしなければという気持ちになる	43 46.7%	42 45.7%	5 5.4%	2 2.2%	
7 お年寄りを世話する仕事は気疲れする	14 15.7%	60 67.4%	12 13.5%	3 3.4%	3
8 お年寄り自分では自分でできることは自分ですべきである	40 43.5%	45 48.9%	7 7.6%	- -	
9 お年寄りを世話しても満足感はそれほど得られない	6 6.5%	9 9.8%	46 50.0%	31 33.7%	
10 お年寄りを世話する仕事はだれにでもできる仕事でない	16 17.6%	32 35.2%	31 34.1%	12 13.2%	1
11 お年寄りの問題は、他の人々の問題に比べてそれほど深刻ではない	- -	6 6.6%	33 36.3%	52 57.1%	1
12 老人ホームの仕事は同じことの繰り返しで、退屈である	2 2.2%	4 4.4%	37 40.2%	48 52.7%	1
13 老人ホームの職員は社会的に高い評価を受けていない	27 29.7%	37 40.7%	23 25.3%	4 4.4%	1
14 お年寄りには必要なサービスを受ける権利がある	61 66.3%	28 30.4%	3 3.3%	- -	
15 お年寄りの世話をすることは、心あたたまる経験である	48 53.3%	38 42.2%	3 3.3%	1 1.1%	2
16 お年寄りは当然受けるべき尊敬を受けていない	7 7.7%	51 56.0%	26 28.6%	7 7.7%	1
17 お年寄りのお世話をしていると、自分が必要とされていることを痛感する	36 40.4%	47 52.8%	6 6.7%	- -	3
18 接しにくいお年寄りが多い	7 7.6%	43 46.7%	32 34.8%	8 8.7%	2
19 お年寄りは何をやってももらっても当然だと思っている	10 10.9%	35 38.0%	42 45.7%	5 5.4%	

*網掛けしてある回答部分が「介護上望ましい」と考えられる回答